

平成26年1月20日  
せんげん公園支隊 情報・広報班

あけましておめでとうございます。皆様、良いお年をお迎えになったことと存じます。

今年最初の支隊便りをお届けします。今年1年が平穏であることを祈って「便り」を発行します。どうぞよろしくお願ひします。

#### 1 1月、2月の活動計画

- ① 支隊長会議 1月14日(火)
- ② 防火・消火班別専門会議 1月18日(土)
- ③ せんげん支隊アンケート 1月19日(日)配布、1月25日(土)提出
- ④ 救出救護班 班別専門会議 2月8日(土)

#### 2 アンケートへのご協力のお願ひ

このたび、せんげん支隊では2種類のアンケートを実施いたします。一つは26年度の支隊の組織編成に関するアンケートです。26年度は今年度以上に充実した支隊活動ができるよう組織を作り上げなくてはなりません。皆様のご理解ご協力を心からお願ひします。

二つ目は自宅用消火器の実態調査です。大地震の時、初期消火は最も重要なことの一つです。自宅が火元にならないよう消火器は絶対必要なアイテムです。消火器がない、使用期限が過ぎているというご家庭はこの機会に是非購入をお勧めします。

#### 3 都心南部直下地震(M7.3)が襲ったら - 国の有識者会議発表(10/20発表)

冬の夕方(風速8メートル)にM7.3の地震が起こったら(震度6以上)、最悪の場合、建物の全壊17万5千棟、火事2000カ所、焼失41万2千棟、死者(1都3県)2万3千人に、このうち、火災による死者は1万6千人で7割に達するという。前回2004年の想定(東京湾北部地震、M7.3)と比較すると死者数約1万2千人、経済被害約50兆円増加するという。

小川地区で震度6以上の地震が起こったら一想像するのも恐ろしいのですが。

世帯数1,700(自治会員1,220+非会員推定500弱)人口推定5,000人として、死者約15人  
負傷者約100人(重傷者約15人) 全壊家屋約360棟 避難者約400人 火災 相当数

ライフラインの被害 停電(復旧まで7日)、ガス(復旧まで約60日)、断水(復旧まで約30日)  
最悪以上のような状況が起こる可能性がある。(蜂谷戸支隊の防災資料より)

希望がないわけではありません。国の有識者会議でも、減災努力次第で(建物の耐震化や火災防止策等)被害は約9割近く減らせるという試算が公表されています。減災努力と言えどとりあえず、自助と共助だと思います。皆さん、万全の備え(自助)と共に防災隊の活動(共助)にも積極的に参加してください。

#### 4 感震ブレーカーとは?

感震ブレーカーは設定値以上(例震度5強以上)の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断することで出火を防止し、他の住宅への延焼を防ぎ、被害を大きく軽減することができる器具です。感震ブレーカーには主に①分電盤タイプと、②コンセントタイプの2種類があります。①は全ての電気を遮断します。設置には工事費込で約10万円、②は個別のコンセントの電気を遮断するもので(工事不要)一個約12,000円かかります 補助金制度や、将来的には電気料金に上乗せで東電が整備することも検討されています。(以下次号)